

も開かれた。

積極性が出てきたなどの効能が出ている。 22日には名古屋大学の学生らによる「体験交流

(高石昌良)

名大生の学生に投げてもらい、受け身を取 たち一豊橋市南牛川町の桜丘学園武道館で 受け身を取る障害者

んに相談したのがきっ 同校副校長の石田三さ いた同校柔道部の河合 石田さんから話を聞

らが、「北欧では武道 を持つ荒木登喜子さん を通じて、障害者に体 いる。この地区でもで を動かす喜びを与えて 昨年1月、障害の子

に**フォー** のことなら きないか」と、前桜丘 とばかりに柔道部員に 喜ぶ。 関係なく、自分自身の けっと競走では順位に 次々と体を預ける。駆 積極性が出てきた」と みせるようになった。 きで、投げてください、 楽しみにまつ。 受け身の練習も大好 日常生活のすべてに

受け身では自分の体を でいるようだという。 障害者は柔道を通じて 河合理事長によると、 スキンシップを楽しん いるようだという。 る本能的な喜びを得て 自分で守ることに対す 一年間講師を務めた る新しい社会貢献の形一ている。 おり、現在、柔道によ

|傾けたい」と張り切っ

者を対象にした柔道教室が開かれて1年が経った。体を動かす喜びを知った、日常生活に 全日本柔道連盟の山下泰裕理事も注目―。豊橋市南牛川町の桜丘学園武道館で知的障害 理事長を務めるNPO 孝監督が快諾。自身が

一らに投げてもらって受

が、いまは練習の日を すら入れなかったの 変わった」と語る。最 ダウン症)は驚くほど

初は緊張して武道館に

法人愛知国際柔道自然

間半、びっしりと続く。

荒木さんは「この1

年間で、息子(28歳、

っし競走など。約一時

け身をとる練習、駆け

注目浴びる知的障害者の柔道教室

桜丘学園武道場 名大からも視察 復横跳びや、柔道部員 人。準備体操に始まり、 塾の主催という形で、 俊敏性を身につける反 開いてきた。 同年5月から月に2回 (第2、第4木曜日) 参加する障害者は13

限界に挑戦する気概を一ていなかった」と目を は、全日本柔道連盟の 丸くした。 学部)は口をそろえて 学部)と峯澤和裕君(農 生み出すとは想像もし がこれほどの積極性を のには驚いた。格闘技 山下理事の耳に入って この一年間の成果 「明るく、楽しそうな 練習後、辻俊宏君(文 | として全国各地での障 害者教室開催の検討に 業)でやってみよう、 一私もコマツ(所属先企 一谷本歩実に話したら、 |輪に出場する教え子の 励ます柔道にも精魂を 道ではない。障害者を 手を育成するだけが柔 入っているという。 と話していた。強い選 河合さんは「北京五

学 3人と一緒に練習の見 の一環として、1年生 担当する基礎セミナー の瓜谷章教授が、自身の 聞きつけて名古屋大学 体験に訪れた。

22日夜には、評判を

豊橋で月に2回、知的障害者向けの柔道教室



(名大生の学生に投げてもらい、受け身を取る障害者たち)

全日本柔道連盟の山下泰裕理事も注目 。豊橋市南牛川町の桜丘学園武道館で知的障害者を対象にした柔道教室が開かれて1年が経った。体を動かす喜びを知った、日常生活に積極性が出てきたなどの効能が出ている。22日には名古屋大学の学生らによる「体験交流」も開かれた。

昨年1月、障害の子を持つ荒木登喜子さんらが、「北欧では武道を通じて、障害者に体を動かす喜びを与えている。この地区でもできないか」と、前桜丘高校副校長の石田三さんに相談したのがきっかけ。

石田さんから話を聞いた同校柔道部の河合孝監督が快諾。自身が理事長を務めるNPO法人愛知国際柔道自然塾の主催という形で、同年5月から月に2回(第2、第4木曜日)開いてきた。

参加する障害者は13人。準備体操に始まり、俊敏性を身につける反復横跳びや、柔道部員らに投げてもらって受け身をとる練習、駆けっこ競走など。約1時間半、びっしりと続く。

荒木さんは「この1年間で、息子(28歳、ダウン症)は驚くほど変わった」と語る。 最初は緊張して武道館にすら入れなかったのが、いまは練習の日を楽しみにま つ。

受け身の練習も大好きで、投げて〈ださい、とばかりに柔道部員に次々と体を預ける。駆けっこ競走では順位に関係な〈、自分自身の限界に挑戦する気概をみせるようになった。「日常生活のすべてに積極性が出てきた」と喜ぶ。

1年間講師を務めた河合理事長によると、障害者は柔道を通じてスキンシップを楽しんでいるようだという。受け身では自分の体を自分で守ることに対する本能的な喜びを得ているようだという。

22日夜には、評判を聞きつけて名古屋大学の瓜谷章教授が、自身の担当する基礎セミナーの一環として、1年生13人と一緒に練習の見学、体験に訪れた。

練習後、辻俊宏君(文学部)と峯澤和裕君(農学部)は口をそろえて「明る〈、楽しそうなのには驚いた。格闘技がこれほどの積極性を生み出すとは想像もしていなかった」と目を丸〈した。

この1年間の成果は、全日本柔道連盟の山下理事の耳に入っており、現在、柔道による新しい社会貢献の形として全国各地での障害者教室開催の検討に入っているという。

河合さんは「北京五輪に出場する教え子の谷本歩実に話したら、私もコマツ(所属先企業)でやってみよう、と話していた。強い選手を育成するだけが柔道ではない。 障害者を励ます柔道にも精魂を傾けたい」と張り切っている。 (高石昌良)